

12

2006年

組合広報

NO. 480

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	土壌汚染問題について	総財務副委員長 池田敏則	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		2
	工協広報委員会、中退共制度		3
あなたの予定表	1月の環研・協組集荷日程ほか		5
	秋の叙勲・褒章 川上副理事長が黄綬褒章受章、全鍍連・石井元会長 が旭日双光章、笠間副会長が黄綬褒章受章		6
	現代の名工 山田英佐夫氏、浅田孝氏、松田勝彦氏受賞		9
	訓練校1月授業案内		11
	全鍍連第44回全国大会 「環境との共生 -水と空気と住みよい地球を-		12
	全国めっき技術コンクール表彰		17
	亜鉛規制強化 水濁法 排水基準を定める省令一部改正		20
	毒物劇物取扱者試験講習会案内		23
	中小企業活力強化大会、東京都中小企業10月景況		24
	SURTECH2007 会場及び開催日程変更のお知らせ		25
	新銀行東京の融資商品のご案内		26
お気に入りの散歩道	つま恋坂		27
支部シリーズ	城南支部「躍進を続ける(有)若山電鍍工業所」 板倉富美子(城南支部)		28
つま恋坂	「5 OCEANS」	内山雄介(城東支部)	29
支部通信	城南支部、足立支部、葛飾支部、向島支部		30
	城南青年部会、西部支部、城北支部		
	大田支部、城北青年部会		
	中国語これはなにかな? 「漢堡包」		40

土壌汚染問題について

総財務委員会副委員長 池田 敏則



総財務委員会の一員となって、自分の出来る限りのことをやらせて頂いておりますが、日頃考えていることを述べさせていただきます。

やはり一番の問題は、組合員の廃業による脱退であります。自分の支部の脱退組合員さんの話を聞くと、まことに寂しい思いとともに、これからふりかかるであろう脱退による廃業手続き、金銭的負担などが心配されます。

私のところにも相談に来られますが、工場跡地の土壌汚染対策には数百万から数億まで状況によって違いますが、途方もない金額となります。数年前なら数億の財産が入ったであろう先祖伝来の土地ですが、いまではそれと同等くらいの処理費がかかるとして、放置されている工場があります。

先日もNHKで土壌汚染問題が放送されたことは皆様もご承知のことと思いますが、「土壌汚染を見つけ出して安全にするために作られた土壌汚染対策法が十分に機能していない。すでに操業を停止した工場がいまも機械や有害物質が残されたまま空家になっている。法律の成立のきっかけは 90 年代後半、大手工場の海外移転ラッシュに伴い、その跡地で次々と土壌汚染が発覚、国は問題を解決して土地取引を活発化させる切り札として対策法を作った。調査は工場跡地をボーリングして地下の土壌を採取、環境基準を超える汚染物質がないかを調べる。その費用は敷地面積によるが、数百万円かかる。その上、汚染が見つければ浄化にかかるコストがさらに数千万円、土地の価格を上回ってしまうことも珍しくない。こういう負担に耐えられず、いま土壌調査を行わないまま工場を放置しているケースが急増している」という放送内容です。

もしこうした放置工場で事故でも起きたらどうするのか、行政はどのように考えているのか伺いものです。現在のところ、小規模工場跡地はアスファルトで固めて駐車場にするくらいしかなく、あまり進展はしていません。

現在操業している企業においても、事前に自分の土地の状況を調べておくことが必要となっています。その際は税制面などいろいろな観点から行政の支援をお願いしたいものです。いつも法律が出来上がってから、我々はそれを乗り越えなければなりません。果たして光が当たる日が来るのであろうかという感じを強くします。

なお、組合運営の方は、お蔭様で環研の事業が順調にいったり安心ですが、それも組合員皆様のご協力のお陰です。組合員さんが会社の存続のため、環境保全、品質管理に、本部の施設を利用して頂いている賜物です。組合員皆様のご協力に深く感謝いたします。

大村理事長日誌



11月

1日(水)全鍍連監事会

全国中央会で公明党国会議員団へ要望
正副理事長会、理事会

2日(木)株梅田鍍金工業所会長のお通夜

6日(月)埼玉・島村周作氏と委員会打合せ

8日(水)東京都中小企業団体中央会

10日(金)全鍍連近畿ブロック会議

15日(水)鈴木隆道都議セミナー

16日(木)正副理事長会

支部長会

18日(土)すみだ新ものづくりフェア

22日(水)全鍍連として経済産業省訪問

全鍍連第44回全国大会

24日(金)大西英男都議セミナー

27日(月)目黒区産業連合会

28日(火)保坂三蔵参議員セミナー

28日(火)全国中央会自民党中小企業議員懇

談会、全国中央会創立50周年記念

城南支部忘年会

30日(木)中小企業4団体活力強化大会

公明党太田昭宏代表セミナー

～組合・関連団体行事予定～

平成19年(2007年)

1月18日(木)正副理事長会

賀詞交歓会(オムニバス)

1月24日(水)監事会

1月25日(木)技能教育委員会

2月3日(土)訓練校技能照査(実技)

城南連合支部新年会

2月6日(火)広報委員会

2月7日(水)正副理事長会・理事会

2月8日(木)環境委員会

2月13日(火)訓練校技能照査(学科)

2月16日(金)ふっ素処理技術小冊子作成委

2月21～23日(水～金)

METEC'07/東京ビックサイト

2月27日(火)訓練校成績判定会議

3月2日(金)全鍍連広報委員会(九州)

3月7日(水)正副理事長会

全鍍連技術委員会

3月8日(木)環境委員会

全鍍連環境対策委員会

3月13日(火)全鍍連国際委員会

3月14日(木)全鍍連近代化委員会

3月16日(金)訓練校修了式

4月3日(火)広報委員会

4月4日(水)正副理事長会、理事会

4月5日(木)環境委員会

4月6日(金)訓練校入校式

4月18日(水)監事会

4月25日(水)正副理事長会、理事会

4月27日(金)中央支部総会

全鍍連総務委員会

5月25日(金)正副理事長会、総代会

5月29日(火)全鍍連常任理事会・総会・理事
会

工協組 第4回 広報委員会

表紙色を選定

と き 平成18年12月5日(火)
午後6時~6時30分
ところ 銀座アスターお茶の水賓館
出席者 大村、姫野、神谷、半田
内山、溝口、板倉、石川
佐藤、小島、広根、岡
(専務理事)青木、小原
(事務局)島田

はじめに大村理事長は「この1年間委員会のみなさんのご協力に感謝申し上げます。私もかつて広報委員会を長年担当させて頂き、神谷委員長とも長いお付き合いがある。東京の広報は全国の組合から高い評価を頂いており、愛知組合から東京の委員会を見学したいとの話を頂いている。委員のみなさんには誇りをもって

これからもご協力をお願いしたい。今日は忘年会ということで今年1年の反省をかねて、良いことはどんどん伸ばして新しい年に向けて進めて頂きたい」と挨拶した。

姫野副理事長は「大村理事長からお褒めの言葉を頂いたが、これ偏に委員みなさんの努力のお陰であり、感謝申し上げます。今年1年を振り返ると、北朝鮮の問題や安部内閣の誕生など大きな動きがあった。経済的には大企業は最高の利益を上げているが、当業界内では依然として厳しい状況が続いている。悪いのは良くなる前提でもあり、来年辺りは少しは光が差してくるのではないかと期待している。組合員のみなさんに的確な情報を提供出来るよう、これからもご協力をお願いしたい」と挨拶した。

神谷委員長は「本日は今年の締めくくりとなるが、この1年のみなさんの協力にお礼申し上げます。私も“お気に入りの散歩道”など我が儘なことをお願いした



が、普段から気に入ったお店があったら散歩道用書き留めて頂きたい」と挨拶し、議事に入った。

1. 広報12月号、1、2月号について

12月号は校正刷により、1月、2月号は台割により掲載内容を検討した。12月号には垂鉛規制強化について水濁法、下水道法改正を取り上げる。1月号は例年通り、大村理事長の年頭所感をはじめ各支部のページ、支部長、青年部会長等の年頭挨拶を掲載する。2月号は私の意見を由田副理事長にお願いするほか本部支部合同新年会等を取上げる。

2. 平成19年広報表紙色及び題字変更について

来年の表紙色を検討し、流行色等を勘案して金色に近い黄緑系を選んだ。また、表紙題字はひと区切りとして変更することとし、書道に精通されている板倉富美子委員の揮毫による題字を採用する。

3. 組合HPについて

神谷委員長から「現在、組合員HP作成募集案内を出しているが、問い合わせはあるが申し込みがない状態である。当社のHPではアクセス数が月200件前後、そのうち5件くらいが決まるが、組合HPに我々がこうしためっきができますと看板を出せば、それを見て頼もうかということになる。組合HPへのアクセス数は月3000件、年36,000件くらいある。めっき業界には材料総合展・メテックがあり参考となるが、組合HPへのアクセスでも同じではないかと思う。こうしたことを盛り込んで組合員HP作成募集のPRを進めていきたい。また、委員のみならずには支部例会等でのPRをお願い

したい」と説明、了承された。

最後に、半田副委員長が「無事今年の委員会を終了することができ、委員みなさんのご協力に感謝する。良い年を迎えられるよう祈念申し上げます」と閉会の挨拶、記念撮影のあと、青木専務理事の乾杯音頭で懇親会に入った。各委員が今年1年を振り返って意見発表するなどなごやかな宴が進み、小原専務理事の中締めにより終了した。

退職金の準備は万全ですか？

中退共制度（中小企業退職金共済制度）は、昭和34年に中小企業退職金共済法に基づき、設けられた中小企業のための国の退職金制度です。中退共制度をご利用になれば、安全・確実・有利な退職金制度が手軽に作れます。

〈制度の特色〉

- ☆ 適格年金制度からの移行先です。
- ・ 適格年金資産を全額移換できます。
- ☆ 掛金の一部を国が助成します。
- ・ 中退共制度に新しく加入する事業主に、掛金月額1/2（上限5,000円）を従業員ごとに、加入後4か月目から1年間助成します。
- ・ 18,000円以下の掛金月額を増額する事業主に、増額分の1/3を増額した月から1年間助成します。
- ☆ 掛金は全額非課税となります。
- ☆ パートタイマー等の方も加入できます。
- ☆ 退職金の管理が簡単です。

〈お問い合わせ先〉

独立行政法人勤労者退職金共済機構 千
105-8077 東京都港区芝公園1-7-6
中小企業退職金共済事業本部（中退共） TEL 03
-3436-0151（代表） FAX 03-3436-0400
<http://chutaikyotaisyokukin.go.jp>

1月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	月	元旦			
2	火				
3	水				
4	木				
5	金			葛飾支部(仕事始め)	
6	土				
7	日				
8	月	成人の日			
9	火			城東支部	
10	水		城南支部	城北支部	
11	木		大田支部	中央支部	
12	金			葛飾支部	
13	土				
14	日				
15	月		品川支部・大田支部	目黒・世田谷地区	
16	火		城西支部	足立支部	
17	水		城西支部・城北支部		
18	木	正副理事長会、新年賀詞交歓会		西部支部	
19	金		中央支部・本所支部	葛飾支部	
20	土				
21	日				
22	月		向島支部	品川地区	
23	火			向島支部	
24	水	監事会	西部支部	本所支部	
25	木	技能教育委員会	城東支部・葛飾支部	蒲田・大森地区	
26	金		葛飾支部	葛飾支部	
27	土				
28	日				
29	月				
30	火		足立支部	城西支部	
31	水				

(役員会、委員会に変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

秋の叙勲・褒章

川上副理事長が黄綬褒章受章、石井全鍍連元会長が旭日双光章、笠間全鍍連副会長が黄綬褒章受章

06年秋の叙勲・褒章で、東京都鍍金工業組合副理事長の川上洋一氏(全鍍連常任理事)が、長年にわたる業界での振興発展に尽力された功績により黄綬褒章を受章された。また、全鍍連元会長・現常任顧問の石井博氏(愛知県鍍金工業組合元理事長)が旭日双光章、全鍍連副会長の笠間則文氏(愛知県鍍金工業組合副理事長)が黄綬褒章を受章された。各氏の功績概要は次の通り。

○川上洋一氏(黄綬褒章受章) 合資会社東亜鍍金工場 代表社員

川上氏は、昭和11年2月、茨城県に生まれ、昭和33年、中央大学工学部卒業と同時に(資)東亜鍍金工場に入社、以来常にめっき技術の向上と環境問題に一貫して取り組み、環境負荷を低減する観点からのめっき製品の品質の向上に努めた。

1) 多品種めっきラインを完成させた功績

昨今、自動車、電子部品の分野では環境負荷の低減が求められ、鉄の防錆に必要な亜鉛めっき加工においても一部の製品では6価クロムから3価クロムへの転換が求められている。しかし、6価クロムでなければ達成できない品質の確保の必要性が有る事、加工原価が高くなる事、工場内に新たな3価クロム使用の後処理専用ラインを増設するスペースが無い事等の理由により転換は容易でなかった。こうした背景の中、限られた工場内において問題を解決すべく、川上氏は長年の独自技術開発の成果により平成16年11月設備投資を行い、全自動ラック式亜鉛めっきラインのクロメート処理工程において5種類のクロメート処理ができる業界唯一のめっきラインを完成させた。この独自開発技術により、顧客別対応とスペース問題をクリアし売上高を順調に推移させている。



2) 亜鉛めっきとクロメート被膜の技術確立に関する功績

川上氏は入社以降、めっき技術の向上に精励し、環境負荷低減の観点から、亜鉛めっきの耐食性、外観を大きく左右するクロメート皮膜を低濃度クロム酸浴から生成する技術を確認する等品質向上に貢献するとともに、1級電気めっき技能士の資格を取得、更なる努力と研究を重ねた結果、「亜鉛めっきを均一な厚さに析出させる技術とクロメート皮膜の色合いを均一に仕上げる技術を確認したこと」「めっき処理に係わる排水処理技術の金属イオン、シアンを簡易に規定値以下にする指導を行ったこと」に対し、平成12年11月東京都優秀技能章を授与され・電気めっき工として東京都技能継承推進者名簿に記載されるまでに至った。

3) 環境行政への貢献に関する功績

平成11年7月に「化学物質排出把握管理促進法」が施行され、電気めっき業のマニュアルを作成して欲しい旨、業界内から強い要望が湧き起こると、平成13年5月、本文・資料・関係法令集合わせて95頁に及ぶ「電気めっき業PRTTRマニュアル」を作成委員会委員として完成させ配布。その結果、平成13年10月1日施行の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」により義務付けられた、東京都内のめっき事業者が、適正管理化学物質の使用量等の報告と化学物質管理方法書の作成義務に速やかに対応できた事は、氏の献身的な努力と業界を担う強い責任感によるものである。

<団体歴>

東京都鍍金工業組合・東京鍍金公害防止協同組合

昭和56年5月～平成7年5月理事

平成7年5月～平成13年5月常任理事

平成13年5月～現在 副理事長

全国鍍金工業組合連合会

平成9年5月～平成13年5月理事

平成13年5月～現在 常任理事

関東鍍金工業厚生年金基金

平成11年10月～現在 理事

関東めっき健康保険組合

平成15年4月～現在 理事

表彰歴 平成17年10月1日 東京都知事

表彰受賞(産業振興功労)

○石井 博氏(旭日双光章受章) 真生電化工業株式会社 代表取締役



石井氏は、昭和10年4月、愛知県名古屋市に生まれ、昭和33年、名古屋工業大学卒業と同時に父親の経営する有限会社真生電化工業所へ入社した。それ以来、専門の化学知識を生かしながら硬質クロムめっきの品質向上、コンピュータ化による処理条件の最適化、生産性の向上に努めた。また、工場作業環境の改善、金属材料の工程内リサイクル型めっき装置の導入、排水処理システムの高度化、地下浸透防止、防音、防振対策の完備を行い、模範的な環境保全型めっき工場を構築した。

昭和42年5月、若くして愛知県鍍金工業協同組合の常任理事に就任、翌年同協組の組織変更が行われ、「愛知県鍍金工業組

合」が設立されると同時に新組合の理事となり、地域の電気めっき業者との技術交流や融和に尽力、昭和 62 年 5 月副理事長、平成 11 年 5 月に理事長に就任し、組合員の近代化と健全な発展に貢献した。

昭和 46 年 6 月～同 48 年 5 月および昭和 62 年 5 月から、全国鍍金工業組合連合会理事、平成元年 5 月に常任理事、平成 9 年 5 月に副会長、更に平成 11 年 5 月に会長に就任し、特に組合員の環境対策、技術向上、経営基盤強化、組織強化に力を注ぎ、業界の融和と発展に貢献した。平成 13 年 5 月より常任顧問・理事として環境対策等の諸事業に貢献している。

こうした功績により、平成 11 年 11 月に通商産業大臣表彰を受け、平成 12 年 11 月に産業振興により藍綬褒章を受章した。この他にも幾多の事績を残し、現在もめっき業界の指導者として活動している。

○笠間則文氏(黄綬褒章受章) 明光工業株式会社 代表取締役会長



笠間氏は、昭和 21 年 1 月、愛知県名古屋市に生まれ、昭和 43 年、早稲田大学卒業と同時に父が創業・経営していた明光工業(株)及び二葉産業(株)に入社した。それ以来、

会社法等の専門分野を生かしつつ、めっき業経営に必要な一連の資格を取得しながら、金属表面処理工場の F A 化に取り組んだ。他方、社員への技術指導体制の強化等により、同社を優秀な技術力を有する企業に育て、その経営手腕を発揮した。とりわけ氏は、「和の繁栄」の社是と「いつもお客さまとともに」をモットーに掲げ、時代を先取りするめっき企業として、社業の興隆に鋭意努力してきた。

また、業界団体においては、平成元年 5 月から愛知県鍍金工業組合の理事に就任、平成 9 年 5 月に専務理事、平成 11 年 5 月に副理事長に就任し、現在に至っている。

この間、主に総務委員会の財務担当責任者として組合事業の推進と組合運営費の節減及び健全財政の維持に献身的に努めるなど、健全な組合の発展に寄与した。

平成 9 年 5 月から、全国鍍金工業組合連合会理事に就任し、一貫して総務委員会等に所属し、平成 11 年 5 月に常任理事、平成 17 年 5 月に副会長に就任するなど、精力的にめっき業界を指導している。

こうした功績により、平成 11 年 10 月に組合功労者として名古屋市長表彰、平成 15 年 11 月に業界振興発展功労者として全国中小企業団体中央会長表彰、平成 16 年 10 月に組合功労者として愛知県知事表彰を受賞した。このほかにも、幾多の事績を残し、今もなお組合役員としてめっき業界の振興発展に努めている。

平成 18 年度「現代の名工（卓越した技能者）」 山田英佐夫氏（東京組合）、浅田孝氏（静岡組合）・ 松田勝彦氏（愛知組合）受賞

「現代の名工」は、日本のものづくりを支える卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者を表彰するものであり、昭和 42 年の創設された。

本年度は、同表彰制度施行 40 周年の節目の年に当たり、11 月 20 日(月)午前 10 時 30 分から明治記念館において、40 周年記念式典を行うとともに、厚生労働大臣から 150 名の方々に対して表彰が行われた。

めっき業界からは、東京都推薦の山田英佐夫氏〔㈱東電工舎（東京組合）〕、全鍍連推薦の浅田孝氏〔丸長鍍金㈱（静岡組合）〕、愛知県推薦の松田勝彦氏〔伊藤工業㈱（愛知組合）〕が表彰された。各氏の技能功績の概要は次の通り。

○山田英佐夫氏(56) 株式会社東電工舎 代表取締役（東京組合）



難めっき製品へ均一な厚さに「電気めっき」可能な技術を確立した。外観・耐食性耐摩耗性の優れた製品を仕上げる技術を有している。また、FA システムを開発、多品種少量生産の自動化を実現し、

コストダウンを図るなど、業界の先駆けとなり発展に貢献した。さらに、平成 13 年度全国めっき技術コンクール装飾クロムめっき部門で厚生労働大臣表彰を受けるとともに、高等職業訓練校（めっき科）の講師として後進指導を行う。

○浅田 孝氏(76) 丸長鍍金株式会社 技術顧問（静岡組合）



電気めっき技能、特にアルミ合金素材へのめっき技能、電鍍の技能並びに、複雑形状素材に均一な膜厚のめっき皮膜を施す技能等に卓越し、開発した処理法により電気・電子機器、医療機器等の高性能化を実現するとともに、後進技能者の育成に大きく貢献した。さらに、平成 18 年 11 月、全鍍連第 44 回全国大会において、全国 3 万人のめっき技能者の代表として全鍍連会長より表彰を受ける。

○松田勝彦氏(68) 伊藤工業株式会社 代表取締役（愛知組合）

自動車部品の亜鉛めっき加工に関する技能に卓越し、皮膜処理剤・光沢剤の研



究開発、三価クロメート製品の品質確保と量産化を実現した他、幾多の考案・改善を行い、生産効率の増進、安全確保に寄与するとともに後進指導育成に貢献した。

さらに、全鍍連主催による全国めっき技術コンクールでは、平成 13 年には亜鉛めっき部門第 1 位の厚生労働大臣表彰を受け、その後も自己研鑽に努めている。

認定職業訓練功労者として都知事感謝状・産労局長感謝状を受賞

東京都産業労働局は 11 月 15 日(水)、東京都庁第一本庁舎 5 階会議場で認定職業訓練及び技能検定関係の平成 18 年度東京都知事感謝状・産業労働局長感謝状の表彰式を行った。

この表彰は、職業能力開発促進法の規定により東京都知事の認定を受けた職業訓練の実施団体・事業所及びその関係者のうち、訓練内容が極めて優良で、その模範となり、功績も顕著であると認められるものを表彰するもので、認定職業訓

練の振興を図ることを目的としている。また、同法の規定により行われる技能検定制度において、技能検定の実施に協力し、その推進に功労があったと認められる技能検定委員及び団体役職員を表彰するもので、技能検定の普及を図ることを目的としている。

今回の受賞者は、都知事感謝状が 1 団体、37 名の功労者、産業労働局長感謝状が 26 名の功労者で、東京都鍍金工業組合関係者では次の方々が受賞された。

東京都知事感謝状受賞

認定職業訓練功労者：石川進氏（東海情報サービス(株)）

東京都産業労働局長感謝状受賞

認定職業訓練功労者：丸田正敏氏（キザイ(株)）、組合環研職員の志賀孝作氏、長嶋政人氏、斉藤弘幸氏、柴田京子氏

工業統計調査のお願い

工業統計調査は、経済産業省が都道府県・区市町村を通じ、わが国の工業の実態を明らかにするため、毎年 12 月 31 日を基準日に実施する調査です。

平成 18 年調査は従業員 4 人以上の事業所を対象に、調査員がお願いに伺いますので、ご協力をお願いします。問合せ：東京都総務局統計部商工統計課 03-5388-2544

HP:<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/kougyo/kg-index.htm>

1月 高等職業訓練校授業案内

		授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 C:17:00～20:30)		
日	曜	時	科目	内容(予定)
12	金	A	はく離① (めっき法)	めっき皮膜のはく離方法 メルテックス㈱ 岩沢裕之
		C	環境法規① (安全衛生)	環境法規の体系、環境基本法、東京都環境確保条例の解説 東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作
16	火	A	はく離② (めっき法)	素地金属及びめっき金属の確認、はく離の化学、皮膜確認。 技能照査説明 メルテックス㈱ 岩沢裕之
		C	環境法規② (安全衛生)	水質汚濁及び水質汚濁防止のメカニズムと法令、排水処理方法等。 (独)東京都立産業技術研究センター 小坂 幸夫
19	金	A	ひっかけ治具③ (めっき法)	ひっかけ治具の製作(技能照査実技試験用) 技能照査説明 海野鍍金工業㈱ 海野吉正、鍍金組合環研 長嶋政人
		C	環境法規③ (安全衛生)	環境保全に関する法令の概要、東京都の環境の現状対策、公害防止管理者の職務 東京都鍍金工業組合環研 志賀 孝作
23	火	A	品質管理① (生産工学概論)	品質管理、工程管理、工程改善、作業標準化、管理図等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		C	環境法規④ (安全衛生)	東京都の環境、大気、水質、振動騒音防止対策の総括 【公害防止管理者資格試験】 鍍金組合環研 長嶋政人
26	金	A	品質管理② (生産工学概論)	不良対策6ステップ、不良の確認法、原因の解析法、工程の改善、発生防止等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		B	塗装 (金属表面処理法)	目的、塗装法の選定、下地の調整、塗料の種類と成分等。 日本大学生産工学部 大野 茂
30	火	A	電着塗装 (金属表面処理法)	原理、長所、短所、カチオン・アニオン電着の機構、電着塗膜の性能 日本大学生産工学部 大野 茂
		B	原価管理① (生産工学概論)	品質保証、品質マニュアル事例、国際規格審査登録等の解説 平和工業㈱ 内藤 隆夫

※聴講料は1科目クーポン券3枚、又は7500円です。

全鍍連第44回全国大会

大会スローガン「環境との共生－水と空気と住みよい地球を－」採択

全国鍍金工業組合連合会(大村功作会長)は、11月22日(水)午後2時から目黒雅叙園で来賓、各組合代表者多数が出席して盛大に第44回全国大会を開催した。大会スローガン「環境との共生／－水と空気と住みよい地球を－」を採択し、業界を挙げて推進していくことにした。

大会は、姫野正弘総務委員長の司会により、鈴木喜代壽副会長の開会の辞、国歌斉唱、業界関係物故者への黙祷のあと、主催者を代表して大村功作会長が「ご多忙のなかをご来賓をはじめ会員多数のご出席を賜り厚くお礼申し上げます。私は会長をお受けして1年半が過ぎ、今大会は2回目となるが、私の任期中は環境との共生をメインとさせて頂き、みなさんのご支援を頂いて今日までやってきた。昨

年私が会長に就任して全鍍連の財政が危機的な状況にあるということで、昨年1年間、みなさんにはご負担をおかけして心苦しく思っているが、これから5年、10年先まで健全な運営をするために必要なことだご理解を頂きご承認を頂いたことに対して厚くお礼申し上げます。殊に総務委員会のみんさんにはいろいろな意見を集約して頂き議案としてまとめ、運営委員会に上程して頂いた。運営委員会は正副会長、総務委員長で構成し、お陰様で決議しみなさんのご承認を頂いたことを厚くお礼申し上げます。これからは環境の時代であると環境との共生、地球にやさしいものづくりを1年間推進し、今年は、水と空気と住みよい地球ということ掲げ、この実現のためには環境問題をクリアーしていかなければならない。



殊に亜鉛が水生生物保全のために規制強化される。一度決まった法律は守らなければいけないが、果たして我々が生きのびていく上でどういう働きかけをしていけばよいかこれからの課題である。また来年6月にはほう素、ふっ素等の暫定基準が期限切れとなる。当初の参議院予算委員会で加藤環境副大臣が、安易で安価な処理技術が開発されない限りは暫定基準を続けるという答弁を頂いており、そうした技術開発ができなければ暫定基準を延長して頂けるものと思っている。一番大きな問題は土壤汚染問題で、10月24日に放送されたNHKクローズアップ現在で土壤汚染問題が取り上げられた。それによると当初大企業の工場跡地の用途変更において土壤汚染の有無を調査するというのが発端となっているが、現在は対応力のない中小零細企業に一番負担がかかっている。夜逃げをして工場がそのままになっていたり、放置された工場が放映されたが、この放送を見た地域の人から、組合として放っておくのかと東京組合に苦情も寄せられた。全鍍連としても国へどういう要望をしていけばよいか、都道府県組合がどういう要望をしていけばよいか、私の任期中にまとめて経済産業省、環境省に要望したいと思っている。この問題もみなさんの力をお借りしてできるだけ早い時期にまとめていきたいと思っており、ご協力をお願い申し上げます」と挨拶した。

大会表彰に移り、今年度の特別功労賞は該当者なしとの報告があり、続いて、長年にわたり組合運営に功労のあった9組合21名の功労役員及び環境整備優良事業所表彰(5組合10社、東京組合該当者なし)を行った。

組合功労役員表彰(21名)



(組合功労役員表彰を受ける東京の石田氏(上)と永田氏(下))

<群馬組合>小林謙一(小林鍍金(株))、<神奈川組合>山崎慎介(東新工業(株))、瀬戸定亮(川崎クローム工業(株))、山下泰((有)山下鍍金工場)、<東京組合>石田昌久(新東(株))、永田一雄((株)梅田鍍金工業所)、池田潤一((株)池田車框製作所)、遠藤清孝((有)朝日鍍金工場)、<長野組合>下島康保(塚田理研工業(株))、中田満男((株)シンワ)、<愛知組合>佐藤寿訓((有)三貴工業)、豊田邦裕((株)豊田電研)、磯谷逸郎((株)インソガイケミカル)、水野修(朝日理化工業(株))、<岐阜組合>塚本勝((有)塚本工業)、水谷美紀((株)美山理研

工業)、<兵庫組合>高橋宏忠(オリエンタル鍍金(株))、<広島組合>新谷哲章(新和金属(株))、松本團治((株)オート)、<九州組合>今仁勝彦(石川 金属工業(株))、小野賢太郎((株)東洋硬化)

環境整備優良事業所表彰(10 社)

<群馬組合>山下金属化工(株)、<愛知組合>八幡鍍金工業(株)、ユケン工業(株)、(資)清水鍍金工業所、<大阪組合>国光鍍金工業(株)、和光鍍金(株)、(株)ダイトウ、(株)堀野鍍金、<山陰組合>(有)堀鍍金工業所、<九州組合>(株)旭鍍金工業所。

全国めっき技術コンクール表彰では、厚生労働大臣賞をはじめ各賞受賞者の表彰が行われた(別掲)。次に卓越した技能者表彰を行った。全鍍連では本年 3 月卓越技能者表彰選考委員会を開き、工業組合からの推薦に基づき厳正な選考の結果、静岡組合・丸長鍍金(株)技術顧問の浅田孝氏をめっき技能者の模範となる卓越した技能者として表彰することを決定し、大村会長より表彰状を授与した。なお、浅田氏は全鍍連推薦により 11 月 20 日に現代の名工として厚生労働大臣により表彰された。

大村会長が議長に就いて大会議事に入った。まず第 43 回全国大会の決議事項の経過及び、今年開催されたブロック会議の経過を布袋屋皓造専務理事が報告した。本大会宣言案(スローガン)「環境との共生／－水と空気と住みよい地球を－」を笠間則文副会長が提案趣旨説明を行い、満場一致でこれを採択した。決議事項は各工業組合、関係官庁、関係団体の協力を仰ぎながら業界の総力を挙げて推進していくことにした。最後に、常任顧問の島村周作、石井博、渡邊正勝、笹野不二夫の 4 氏による万歳三唱、吉田勇

副会長の閉会の辞をもって大会を終了した。

3 時半から懇親パーティに入り、森脇隆総務副委員長の司会により、宮阪東明副会長の開宴の辞、大村会長の挨拶、来賓として経済産業省製造産業局非鉄金属課岩野宏課長、全国中小企業団体中央会橋本一美研修部長、日本表面処理機材工業会奥野和義会長のから挨拶を頂いた。さきの秋の叙勲褒章で、全鍍連元会長で現常任顧問の石井博氏が永年にわたるめっき業界での功績により旭日双光章受章の栄に浴され、また、全鍍連副会長で愛知組合副理事長の笠間則文氏と全鍍連常任理事で東京組合副理事長の川上洋一氏が共に黄綬褒章受章の栄に浴されこと、さらに、静岡組合・丸長鍍金(株)の浅田孝氏、愛知組合・伊藤工業(株)の松田勝彦氏、東京組合・(株)東電工舎の山田英佐夫氏が、現代の名工として厚生労働大臣より表彰されたことが披露され、盛大な祝福の拍手がおくられた。経済産業省製造産業局非鉄金属課生産流通係木村範尋係長の乾杯の発声で懇親会に入った。懇親会は草間英一名誉顧問の中締め、清川忠副会長の閉宴の辞までなごやかに進められた。

第 43 回全国大会決議事項の経過報告

平成 17 年 11 月に開催された第 43 回全国大会では、「環境との共生/地球にやさしいモノづくりー世界に誇れるめっき業ー」を大会スローガンとして採択しました。本スローガンに関する実施経過は次の通りです。

「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律(平成 18 年 4 月公布)」において、「めっき技術指針」が定められたことに象徴されるように、電気めっき加工技術は我が国の産業を支える重要な基盤技術として高く評価されております。即ち、世界に誇れるめっき業を構築するには、環境保全に真摯に取り組み、地球にやさしいモノづくりを行い、生産技術の高度化と環境との共生を両立することが我々に課せられた使命であります。

全鍍連では、こうした大会スローガンの理念に従い、その実現に努めて参りました。

排水関係では、水生生物保全のための亜鉛排水規制が本年 12 月 11 日より施行され、また、ほう素、ふっ素及び硝酸性窒素・亜硝酸性窒素の暫定排水基準の期間が平成 19 年 6 月末で終了します。こうした状況を踏まえ、全鍍連では各工業組合並びに組合員各位の協力により、これら 4 物質について、年 2 回(春・秋)の排水濃度調査事業を実施し、実態の把握に努めて参りました。その中で、各社が自社の状況に応じて一律基準の達成に向けた努力を行うよう呼びかけるとともに、本年 11 月 2 日には表団協セミナーにおいて排水処理に関する技術講演を行いました。しかし、生産状況によっては一律基準の達成が困難な事業所が相当数存在することに鑑み、上記調査結果を踏まえて行政側に業界の実情を説明致しました。その結果、亜鉛については一律基準 2 mg/l に対して、電気めっき業等に対する暫定排水基準 5 mg/l(5 年間)を獲得し、ほう素、ふっ素等については、暫定措置の継続について、現在鋭意要望を行っております。

大気関係では、平成 17 年度より VOC(揮発性有機化合物)の大気排出抑制のための「自主行動計画」を推進しており、「全鍍連誌」等において計画や排出抑制に関する情報提供を行ってきました。本計画は、平成 12 年度を基準年度として平成 22 年度の VOC 大気排出量を約 30%削減するというものですが、本年の 8 月に行ったアンケート調査によれば、各社の努力により平成 17 年度の時点で約 27%の排出抑制を達成していることが判明しました。

土壌問題は、当業界にとって切実な問題であり、環境対策委員会を中心に正副会長会、常任理事会、理事会等でも様々な議論が行われてきました。本件については、各社・各地区が置かれている状況により様々な見解があること、私有財産の補填につながる公的援助は困難であること、地元行政の独立性等の背景があり、現状では有効打が打ち出せない状況ですが、環境対策委員会にて情報交換を行いながら、引き続き検討して参ります。

Rohs 指令等の欧州化学物質規制の動向、事故防止対策の徹底等については「全鍍連誌」で周知するとともに、様々な環境問題に関する基本情報については「全鍍連要覧」に掲載しております。

以上は、スローガンの達成に向けた取り組みの一端ですが、引き続き全鍍連の中心課題として継続して参ります。

第 44 回全国大会宣言(スローガン)

環境との共生

—水と空気と住みよい地球を—

近年、地球規模による水、大気等環境悪化が進み、国際的にも大きな問題となっている。

企業活動や日常生活から生じた諸要因が、環境に複雑な悪影響を及ぼし、地球の温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨等をもたらしたとされている。

こうした環境問題は特定地域の問題として捉えてきたが、京都議定書等の発効を契機として、今や、世界的な規模での取り組みが求められ、更に、取り組んだ内容や成果等の情報開示が求められている。

この様な流れを先取りする形で、旧中小企業経営革新支援法に基づく経営基盤強化計画に着手して「環境保全対策」を推進し、「環境と共生するめっき企業」を目指して、環境問題に総力を挙げて取り組んできた。

一方、欧米諸国では、90年代前半から有害化学物質の環境への影響を評価する「リスクアセスメント」の概念を導入し、これを国や企業並びに住民の環境保全活動に活用しようとする動きが活発化している。

この為、環境共生型のめっき産業を目指すためには、新たに次々と発生する課題を解決していかななくてはならない。

めっき薬品のみならず、めっき工程で使用されているすべての重金属等についての実態把握の強化と状況に応じて適切な情報開示に取り組む必要があり、顧客、資材調達先、行政等とパートナーシップを築くことが重要である。

同時に、残された貴重な自然環境を守りながら、地域住民と望ましい生活環境を育み、地域の資源循環に寄与していく意識づくりが求められる。

経済社会の中心が産業から生活へと移行する中、生活の場である地域社会の重要性が改めて共通認識される時代を迎えている。

「安全で安定した地域社会」、「自然との触れ合いづくり」等、質の高い暮らしへの要求が高まっている。

これらの要請に対し、水と空気がすべてのキーとなろう。すなわち、「安全で安定した地域社会づくり」には「環境配慮」が不可欠であり、「自然との触れ合いづくり」には「循環型社会」に取り組んでいかなければならない。

緩やかで多様性が尊重される「地域づくり」と「地球環境に配慮したものづくり」が求められる中、めっき業界では、住みよい地球づくりのために「水と空気を大切にする」意識の高揚を図ろうではないか。

こうした活動は、「美しい日本」「美しい地球」の創成に資するだけでなく、ひいては、顧客との付加価値の創造が図られ、新たなビジネスチャンスをもたらすものと考えられる。

全国めっき技術コンクール表彰(174件)

厚生労働大臣賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

白金鍍金工業㈱ 笹野修弘 (愛知)

【装飾クロムめっき部門】

㈱エコー 森本 宏 (大阪)

【亜鉛めっき部門】

鈴木鍍金工業㈱ 鈴木泰造 (愛知)



厚生労働省職業能力開発局長賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

三光製作㈱ 鈴木喜郎 (静岡)

【装飾クロムめっき部門】

清川メッキ工業㈱ C チーム (福井)

【亜鉛めっき部門】

㈱アサヒテクノ 阿部 等 (四国)



(中央能開協会会長賞受賞の八幡鍍金工業㈱八幡浩二氏と、㈱吉崎メッキ化工所社長)

中央職業能力開発協会会長賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

八幡鍍金工業㈱ 八幡浩二 (東京)

三光製作㈱ 小林範夫 (静岡)

【装飾クロムめっき部門】

㈱光陽 入江邦成 (群馬)

㈱吉崎メッキ化工所 大竹健一 (東京)

【亜鉛めっき部門】

宇都宮タマル工業㈱ 林 直昭 (栃木)

緒方工業㈱A チーム (九州)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 金賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

㈱光 陽 (群馬)

清川メッキ工業㈱第5 製造部 A チーム(福井)

【装飾クロムめっき部門】

太田鍍金工業㈱ 太田幸一 (東京)

㈱大和電化工業所 林 裕司 (愛知)

メテック北村㈱ 佐々木 健 (京都)

清川メッキ工業㈱第5 製造部 A チーム(福井)

【亜鉛めっき部門】

㈱大和電化工業所 角屋俊幸 (愛知)

京王電化工業㈱ 山田朋幸 *(東京)

シルバーメッキ工業㈱ 安部正行 *(東京)

(有)正田工場 高原 仁 *(東京)

(有)田島鍍金工場 田島紀男 *(東京)

㈱田中金属研究所 田中夏子 *(東京)

中央化学産業㈱ 細野洋允 *(東京)

双葉メッキ工業㈱古河工場矢澤宏幸*(東京)

ノバルテクノロジー㈱ 山原康寛 *(東京)

日刊工業新聞社賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

宇都宮タマル工業㈱ 林 直昭 (栃木)

清川メッキ工業㈱ A チーム (福井)

【装飾クロムめっき部門】

宇都宮タマル工業㈱ 林 直昭 (栃木)

清川メッキ工業㈱ B チーム (福井)

【亜鉛めっき部門】

旭産業㈱ 永峯 進 (神奈川)

㈱ユニゾーン 作道 暁 (富山)

株式会社吉崎メッキ化工所 大谷 綾 *(東京)
日本表面化学株式会社 窪田年宏 *(大阪)
有限会社三津屋電化工業所 濱田綾子 *(大阪)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 銀賞

【研磨・装飾クロムめっき部門】

株式会社ヒキフネ A チームリーダー 山田亮(東京)
株式会社ユニゾーン 岩川昭仁 (富山)
【装飾クロムめっき部門】
小川工業株式会社 高田 進 (愛知)
株式会社ユニゾーン 山下晋平 (富山)
メテック北村株式会社 吉田 真 (京都)
株式会社ユニゾーン 西村栄一 *(大阪)

【亜鉛めっき部門】

三友電子工業株式会社 目黒工場 (東京)
緒方工業株式会社 B チーム (九州)
硬化クローム工業株式会社 類家佳亮 *(東京)
株式会社黒坂鍍金工業所 久保寿志 *(東京)
株式会社シルベニア 城間裕也 *(東京)
信栄鍍金工業株式会社 園部孝仁 *(東京)
株式会社精密電化工業所 日台友幸 *(東京)
株式会社ヒキフネ 奈良 匠 *(東京)
株式会社八神化学工業所 永田吉一 *(東京)
オーエム産業株式会社 増田将也 *(大阪)
国光鍍金工業株式会社 村井昭太郎 *(大阪)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 銅賞

【研磨・装飾クロムめっき部門】

株式会社ヒキフネ B チームリーダー 木村琢磨(東京)
株式会社ヒキフネ C チームリーダー 井上秀一(東京)
株式会社吉崎メッキ化工所 渡辺俊之 (東京)
旭産業株式会社 富田正和 (神奈川)
サン工業株式会社 足立弘通 (長野)
株式会社二村研磨工業所 (愛知)
明光工業株式会社 田中雅之 (愛知)
株式会社ユニゾーン 平田裕輔 (富山)
清川メッキ工業株式会社 第5 製造部 C チーム(福井)
株式会社エコー 森本 宏 (大阪)
有限会社武田鍍金工業所 (四国)

【装飾クロムめっき部門】

スズキハイテック株式会社 (東北)
平和工業株式会社 小野寺卓次 (東京)
平和工業株式会社 鈴木 大 (東京)
京三化工株式会社 岡崎次男 (神奈川)
サン工業株式会社 池上 雄 (長野)
白金鍍金工業株式会社 (愛知)
太陽電化工業株式会社 (愛知)
有限会社竹田鍍金工業 マルチライン (愛知)
株式会社二村研磨工業所 (愛知)
明光工業株式会社 梶田信博 (愛知)
有限会社渡辺メッキ工業 (愛知)
株式会社ユニゾーン 高木一博 (富山)
国重メッキ工業株式会社 (岡山)
有限会社武田鍍金工業所 (四国)
アイテック株式会社 斉藤範男 *(大阪)
オテック株式会社 安井 崇 *(大阪)
株式会社サトーセン 内藤 学 *(大阪)
株式会社三晃鍍金工業所 岡田紘子 *(大阪)
三和鍍金工業株式会社 大隅高広 *(大阪)
株式会社太洋工作所 岡野和幸 *(大阪)
塚本鍍金工業株式会社 山邊大輔 *(大阪)
株式会社土井鍍金 北浦猛志 *(大阪)
株式会社西村ケミテック 森川 大 *(大阪)
株式会社野村鍍金工業所 島本幸伸 *(大阪)
有限会社浜岡鍍金工業所 井上憲一 *(大阪)
株式会社姫路鍍金工業所 荒木大輔 *(大阪)
有限会社萬善鍍金 三宅 誠 *(大阪)
株式会社友電舎 竹村栄治 *(大阪)

【亜鉛めっき部門】

スズキハイテック株式会社 (東北)
東邦メッキ株式会社 阿部勝行 (東北)
溝口鍍金株式会社 螺良太一 (茨城)
溝口鍍金株式会社 笹本 健 (茨城)
株式会社吉崎メッキ化工所 森田秀一 (東京)
旭産業株式会社 北村武雄 (神奈川)
株式会社遠州クロム 鈴木亮平 (静岡)
株式会社遠州クロム 竹尾勝比古 (静岡)
三光製作株式会社 柴田和良 (静岡)

三光製作(株) 鈴木喜郎 (静岡)
 サン工業(株) 向山洋志 (長野)
 伊藤工業(株) 松田勝彦 (愛知)
 三研工業(株) 稲葉辰也 (愛知)
 三研工業(株) 名古屋工場 A チーム(愛知)
 三研工業(株) 名古屋工場 B チーム(愛知)
 白金鍍金工業(株) (愛知)
 (株)ダイワエクスセル本社製造部 (愛知)
 (株)ダイワエクスセル豊橋製造部 (愛知)
 明光工業(株) 山崎大策 (愛知)
 東栄コーティング(株) 小林健治 (岐阜)
 (株)ユニゾーン 河原智行 (富山)
 清川メッキ工業(株)技術部 A チーム(福井)
 清川メッキ工業(株)技術部 B チーム(福井)
 清川メッキ工業(株)技術部 C チーム(福井)
 メテック北村(株) 佐々木健 (京都)
 メテック北村(株) 吉田 真 (京都)
 オーエム産業(株)亜鉛めっきラインチーム(岡山)
 オーエム産業(株)技術係チーム (岡山)
 中備メッキ工業(株) (岡山)
 (有)チューメックス定金 (岡山)
 新和金属(株) 山田幸治 (広島)
 新和金属(株) 吉川桂司 (広島)
 (有)武田鍍金工業所 (四国)
 (有)森産業 (四国)
 (株)熊防メタル (九州)
 吉玉精鍍(株)SC 課 柳田久幸 (九州)
 吉玉精鍍(株)生産技術課 貫宏純 (九州)
 (株)岩本製作所 岩本義仁 *(東京)
 (有)梅田製作所 清水治美 *(東京)
 (株)大倉 岡田祥一 *(東京)
 京王電化工業(株) 篠田雄一 *(東京)
 (有)カワヅエンダストリー 臼倉 剛 *(東京)
 (有)カワヅエンダストリー 根本 幹 *(東京)
 キクヤピーエム(株) 小松慎司 *(東京)
 (株)協和高崎工場 太田博之 *(東京)
 (株)協和高崎工場 山崎琢也 *(東京)
 (有)金星鍍金工業所 斉藤 修 *(東京)
 (株)黒坂鍍金工業所 増山洋子 *(東京)

三友電子工業(株) 田中雅高 *(東京)
 三友電子工業(株) 登山拓也 *(東京)
 (有)島田工業所 島田昌潔 *(東京)
 (株)シルベニア 富岡岳史 *(東京)
 新日東電化協業組合 岡本 博*(東京)
 (株)トーヨー 牧瀬広大 *(東京)
 (株)都南ビーピー 大村雅史 *(東京)
 仁科工業(株) 大内修司 *(東京)
 ニシハラ理工(株) 宮寺卓彦 *(東京)
 ネオプレテックス(株) 塚越淳平*(東京)
 (株)ヒキフネ 湯浅美和 *(東京)
 (株)フジック 早川 勇 *(東京)
 平和工業(株) 小野寺卓次 *(東京)
 (株)三鷹金属化工所 津田英治 *(東京)
 (株)三鷹金属化工所 土屋若登 *(東京)
 (株)三ツ矢 橘川孝一郎 *(東京)
 (株)三ツ矢 古谷 淳 *(東京)
 メイホー(株) 江原 弾 *(東京)
 八幡鍍金工業(株) 瀧見直晃 *(東京)
 大和金属工業(株) 早坂 隆 *(東京)
 大和金属工業(株) 二瓶直樹 *(東京)
 (有)ワイ・エム・シー 鈴木康史*(東京)
 アルファメック(株) 有富竜二 *(大阪)
 (株)ヴライト技研 松本孝司 *(大阪)
 オーエム産業(株) 島村建広 *(大阪)
 オーエム産業(株) 神崎好博 *(大阪)
 (株)金澤鍍金工業所 隅埜泰之 *(大阪)
 佐和鍍金工業(株) 釣 陽介 *(大阪)
 三徳薬品(株) 川崎亮治 *(大阪)
 中央化学(株) 三崎昌平 *(大阪)
 ヒカリ(株) 安川剛史 *(大阪)
 (株)ムラタ 山口 実 *(大阪)
 メルテックス(株) 清水亮博 *(大阪)
 (株)モリクロ 橋本孝志 *(大阪)

註①掲載は組合順(北→南)、同組合の場合は
 申込順。②東京都鍍金工業組合高等職業訓練
 校の生徒からの参加者は*(東京)と標記
 ③大阪高等めつき技術訓練校の生徒からの参
 加者は*(大阪)と標記

亜鉛規制強化 水濁法 排水基準を定める省令一部改正

環境省は、平成 18 年 11 月 10 日「排水基準を定める省令等の一部を改正する省令」について次のように発表した。

「排水基準を定める省令等の一部を改正する省令」が本日公布され、平成 18 年 12 月 11 日から施行されることとなった。

今回の省令改正は、水生生物保全の観点から平成 15 年に亜鉛の環境基準が設定されたことを受けて、その達成・維持に必要な排水規制施策として水質汚濁防止法の亜鉛の排水基準値を強化することとしたものである。

改正の趣旨

亜鉛の排水基準は、従来から、水道水や農業用水の基準をもとに 5 mg/l と定められていたが、水生生物保全の観点から平成 15 年に環境基準が設定されたことを受けて、その達成・維持に必要な排水規制の在り方について、平成 16 年に環境大臣から中央環境審議会に対して諮問がなされた。この諮問は同審議会水環境部会に付議され、同部会水生生物保全排水規制等専門委員会における調査検討を踏まえ、平成 18 年 4 月に亜鉛の排水基準を 2 mg/l に見直すことなどを内容とする答申（「水生生物保全に係る排水規制等の在り方について（答申）」（中環審第 330 号））がなされた。

この答申を受けて亜鉛含有量の排水基準を強化することともに、関連する省令の基準を調整するため、今般、排水基準を定める省令等の改正を行うものである。

「排水基準を定める省令等の一部を改正

する省令」の概要

(1) 排水基準等の強化

以下の 4 つの省令に定められた亜鉛に係る基準を強化する。

①排水基準を定める省令(昭和 46 年総理府令第 35 号)

別表第二中、亜鉛含有量の許容限度:5mg/l→2mg/l

②海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行令第五条第一項に規定する埋立場所等に排出しようとする金属等を含む廃棄物に係る判定基準を定める省令(昭和 48 年総理府令第 6 号)

別表第一中、亜鉛又はその化合物の基準:5mg/l 以下→2mg/l 以下

③一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令(昭和 52 年総理府・厚生省令第 1 号)

別表第一中、亜鉛含有量の基準:5mg/l 以下→2mg/l 以下

④南極地域の環境の保護に関する法律施行規則(平成 9 年総理府令第 53 号)

別表第八中、亜鉛含有量の基準値:5mg/l 以下→2mg/l 以下

(2) 排水基準省令における暫定基準の設定

排水基準を定める省令においては、以下のとおり、暫定排水基準を設定する。

・排水基準に対応することが著しく困難と認められる以下の 10 業種に属する特定事業場に対し、施行後 5 年間に限った暫定的な排水基準(以下「暫定排水基準」という。)を設定する。暫定排水基準は、5mg/l とする。

①金属鉱業

- ②無機顔料製造業
- ③その他の無機化学工業製品製造業
- ④表面処理鋼材製造業
- ⑤非鉄金属第一次製錬・精製業
- ⑥非鉄金属第二次製錬・精製業
- ⑦建設用・建設用金属製品製造業(表面処理を行うものに限る。)
- ⑧溶融めっき業
- ⑨電気めっき業
- ⑩下水道業(①～⑨に属する工場又は事業場から排除される下水を受け入れている下水道終末処理施設を有するもので一定のもの※に限る。)

※「一定のもの」とは、次の算式により計算された値が2を超えるものをいう。

$$\frac{\sum C_i \cdot Q_i}{Q}$$

この式において、 C_i 、 Q_i 及び Q は、それぞれ次の値を表すものとする。

C_i 当該下水道終末処理施設を設置している特定事業場(以下「当該下水道」という。)に下水を排除する下水道法(昭和三十三年法律第七十九号)第十二条の二第一項に定める特定事業場(「特定事業場」という。)ごとに、当該特定事業場から当該下水道に排除される下水の亜鉛及びその化合物による汚染状態の通常値(単位亜鉛の量に関して、一リットルにつきミリグラム)

Q_i 当該特定事業場から当該下水道に排除される下水の通常量(単位 一日につき立方メートル)

Q 当該下水道から排出される排出水の通常量(単位 一日につき立方メートル)

・水質汚濁防止法施行令(昭和46年政令第188号)別表第一第74号に掲げるいわゆる共同処理場に該当する施設を有する事業場については、その処理する水を

排出する特定事業場の属する業種に属するものとみなして、暫定排水基準を適用することとする。

(3) 猶予期間の設定

改正省令の施行にあたり、以下の基準については、猶予期間を設けることとし、猶予期間中は、なお従前の例によることとします。

①排水基準を定める省令関係

・この省令の施行の際現に水質汚濁防止法に基づく特定施設を設置している者(設置の工事をしている者を含む。以下同じ。)の当該施設を設置している工場又は事業場に係る排出水の亜鉛含有量についての排水基準→猶予期間:6月間

②海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行令第五条第一項に規定する埋立場所等に排出しようとする金属等を含む廃棄物に係る判定基準を定める省令関係

・この省令の施行の際現に海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律(昭和四十五年法律第百三十六号。以下「海洋汚染防止法」という。)第十条第二項第三号に掲げる排出を行っている者に係る同号に掲げる排出に係る廃棄物に係る判定基準→猶予期間:6月間

・この省令の施行の際現に海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行令(昭和四十六年政令第201号。以下「海洋汚染防止法施行令」という。)第六条第四号に掲げる廃棄物の海洋投入処分を行っている者が行う海洋投入処分に係る廃棄物の判定基準 →猶予期間:平成19年3月31日までの間

・この省令の施行の際現に海洋汚染防止法改正法による改正後の海洋汚染防止法第十条の六第一項の許可を受けている者又は許可を申請している者の当該許可又

は申請に係る水底土砂に係る判定基準
→猶予期間:6月間

③一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令関係

・この省令の施行の際現に廃棄物の処理及び清掃に関する法律第八条第一項又は第十五条第一項の許可を受けている者又は許可を申請している者の当該許可又は申請に係る一般廃棄物又は産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準等 →猶予期間:6月間

④南極地域の環境の保護に関する法律施行規則関係

・この省令の施行の際現に南極地域の環境の保護に関する法律第五条第一項の確認を受けている者又は確認を申請している者の当該確認又は申請に係る南極地域活動において行う海域への液状廃棄物の排出に係る液状廃棄物に係る基準 →猶予期間:6月間

(4) 罰則についての措置

以下の行為に対する罰則の適用については、なお従前の例によることとする。

・この省令の施行前にした行為
・(3)で猶予期間を設けられている場合におけるこの省令の施行後にした行為

(5) 施行期日

平成 18 年 12 月 11 日を予定している。

亜鉛に関する下水排除基準の改正について

背景

環境基準に、水生生物の保全のため新たに生活環境項目として全亜鉛が設定され、環境基準を達成するために排水基準が強化されることとなった。

下水道終末処理施設から放流水に含まれる亜鉛の負荷量を低減するため、下水道に流入する排水等に含まれる亜鉛を低減させる発生源対策が必要とされ、下水道法施行令が改正されることとなった。

改正の概要

下水道法施行令 亜鉛及びその化合物
5mg/l→2mg/l

暫定基準及び猶予期間

○暫定基準:排水基準を定める省令(環境省令)の附則として規定され、下水道法施行令の基準にも適用される。以下の業種について、5年間現行基準(5mg/l)を適用する。

- ①金属鉱業
- ②無機顔料製造業
- ③その他の無機化学工業製品製造業
- ④表面処理鋼材製造業
- ⑤非鉄金属第一次製錬・精製業
- ⑥非鉄金属第二次製錬・精製業
- ⑦建設用・建設用金属製品製造業(表面処理を行うものに限る)

⑧溶融めっき業

⑨電気めっき業

○猶予期間:施行の際、既に特定施設を設置している者については、6ヶ月後からの適用となる。新設については12月10日から2mg/l規制。

スケジュール

平成 18 年 11 月 10 日

下水道法施行令公布

平成 18 年 12 月 10 日

下水道法施行令施行

平成 23 年 12 月 9 日

暫定期間終了

平成18年12月

毒物劇物取扱者試験講習会のご案内

東京都鍍金工業組合

平成19年度の東京都毒物劇物取扱者試験が7月上旬頃に予定されております。当組合では、試験対策講習会を実施する予定ですので、受験を予定されている方は、是非受講されるようご案内申し上げます。

なお、下記の要領で行う予定ですので、受講をご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、下記の宛先に郵送又はFAXにて申込み下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

記

1. 講習日程

回数	期日	時間	科目	講師
第1回	4月11日(水)	18:00~21:00	基礎化学・物理	長嶋 政人
第2回	4月18日(水)	〃	基礎化学・物理	〃
第3回	5月9日(水)	〃	基礎化学・物理	〃
第4回	5月16日(水)	〃	法規	斉藤 弘幸
第5回	5月23日(水)	〃	法規	〃
第6回	5月30日(水)	〃	法規	〃
第7回	6月6日(水)	〃	各論	志賀 孝作
第8回	6月13日(水)	〃	各論	〃
第9回	6月20日(水)	〃	各論	〃
第10回	6月27日(水)	〃	まとめ	〃

※ なお、工業高等学校又はこれと同等以上の学校で応用化学に関する学科を修了した方は「毒物劇物取扱責任者」となる資格があるので受験する必要はありません。

2. 講習会場 めっきセンター4階会議室(文京区湯島1-11-10)

3. 講師 環境科学研究所職員

4. 受講料金(テキスト代を含む) 第1回目の講習日にお支払ください。

組合員 20,000円

訓練生 15,000円

員外 25,000円

5. 定員 45名

(但し、申込者が少ない場合、講習会を中止する場合がございますのでご了承ください。)

6. 申込締切日 平成19年4月3日(火)

7. 申込先 東京都鍍金工業組合 事務局(〒113-0034 文京区湯島1-11-10)

電話 03(3814)5621 FAX 03(3816)6166

*申込者が複数になる場合は、申込書をコピーして使って下さい。

ご不明の点がありましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

「中小企業活力強化大会」



中小企業関係 6 団体(東京都商工会議所連合会、東京商工会議所、東京都商工会連合会、東京都中小企業団体中央会、東京都商店街振興組合連合会、東京都商店街連合会)は、包括的な事業承継税制の確立など 4 つの要望事項の実現を図るために、11 月 30 日(木)午前 9 時 30 分から国際会議場で中小企業活力強化大会を開催した。東京都鍍金工業組合大村功作理事長は都中央会会長として出席した。

大会では、我が国経済の発展は、全企業数の 99.7%、雇用の約 7 割を占める中小企業の成長なくしてはあり得ない。しかし、現在の中小・少規模企業対策予算の規模はあまりにも小さく、意欲ある中小企業の取り組みを支援するには十分ではないため、国および東京都におかれては予算を飛躍的に拡充するとともに、中小企業施策を充実強化することが求められる。こうした観点を踏まえて、中小企業の活力が最大限に発揮される環境を実現するために、政府・各政党におかれては、包括的な事業承継税制の確立等中小企業関係税制の拡充などの政策を推進されるよう決議した。

東京都中小企業の 10 月景況

(11 調査) 東京都産業労働局商工部
—景況足踏み続く—

○10 月の都内中小企業の業況 DI は▲30(前月▲31)とほぼ横ばいとなった。本年 7 月以降、▲30 前後で推移しており、足踏み状態が続いている。当月と比べた今後 3 ヶ月(11~1 月)の業況見通し DI は▲13(同▲14)と変化に乏しく、模様ながめとなった。

○都内中小企業の業況 DI を業種別で見ると、製造業は▲24(前月▲28)と 4 ポイント増加し、3 ヶ月連続の悪化からやや回復した。卸売業は▲28(同▲30)と 2 ポイント増とわずかに改善。小売業は▲51(同▲50)、サービス業は▲20(同▲21)とほぼ横ばいであった。業種区分別で見ると、前月に悪化した製造業の「衣料・身の回り品」「材料・部品」は改善した。また、卸売業の「日用雑貨」「衣料・身の回り品」、小売業の「日用雑貨」の改善も目立った。

○当月と比べた今後 3 ヶ月(11~1 月)の業況見通し DI を業種別で見ると、卸売業は▲8(前月▲12、前々月▲16)と 2 ヶ月連続して 4 ポイントずつ増加し、徐々に期待感がふくらんだ。一方、小売業は▲25(前月▲27)、製造業は▲13(同▲11)、サービス業は▲9(同▲8)といずれの業種も変化に乏しく、模様ながめとなった。

○前年同月比の売上高 DI は▲26(前月▲28)と 2 ポイント増加し、2 ヶ月連続の改善となった。業種別で見ると製造業は▲15(同▲23)と 8 ポイント増と改善、卸売業も▲20(同▲22)と 2 ポイント増加した。一方、小売業は▲50 と横ばい、サービス業は▲25(同▲20)と 5 ポイント減とやや悪化した。

○当月の仕入価格DIは十10(前月十13、前々月十25)と2ヶ月連続して減少し、さらに落ち着いた動きとなった。業種別でみると、製造業は十24(前月十24)と高水準が続いている。特に、業種区分別の「電気機器」が十44(同十44)と目立った。卸売業は十8(前月十14、前々月十29)と落ち着いた動きとなった。小売業も▲7(前月▲5)と2ポイント減少した。

都内中小企業の事業資金に関する調査

○主な取引金融機関の借入れや返済に対する姿勢を借入・返済DI(「緩やか」―「厳しい」)でみると、十27.6と前回調査(平成18年5月)十30.0に比べ2.4ポイント減少し、2年ぶりに緩和姿勢が弱まった。規模別にみると、規模が大きくなるほど金融機関の緩和の度合いが高い。

○主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」の割合が大きく減少する一方、「上昇」と回答した企業割合が54.8%と前回調査に比べ25.0ポイントの大幅な増加となり、上昇する傾向が強まった。

○最近の借入金利は、「2%台」の割合が48.3%と最も高く、次いで「3%台」の27.7%、「1%台」の15.8%の順になっている。「1%台」の割合が減る一方で、「3%台」が増えている。

○今後の資金需要は、全体では「横ばい」が56.2%と最も大きな割合を占める。「増加」の割合は30.7%と「減少」の13.0%よりも高い。「増加」企業の資金使途は「運転」資金が53.1%、「設備」資金が20.4%、「運転・設備」が26.5%であった。その増加分の調達方法は「借入(融資)」が7割と最も大きな割合を占める。「自己資金」も約3割あるが、役員借入等の「借入(その他)」「社債」はわずかである。

SURTECH2007 会場及び開催日程変更のお知らせ

(社)表面技術協会 SURTECH2007(組織委員会田村和男委員長)はこのほどSURTECH2007はSURTECH2006より開催規模を拡大し飛躍するため、会場を「幕張メッセ」に変更し、平成19年9月5日(水)～7日(金)に開催することと出展募集について発表した。

それによると、SURTECHはあらゆる産業をリードし続ける「表面技術」の従来技術から先端技術まで様々な情報を入力できる展示会。同時に講演会、フォーラム、シンポジウム、ポスターセッション実演等を開催し、知的情報に至るまで表面技術の全てを網羅することにより、ものづくり表面技術のすべてがわかるSURTECH2007を目指すとしている。

名称：SURTECH2007

会場：幕張メッセ 7ホール

会期：07年9月5～7日(水～金)

URL：www.surtech.or.jp

出展料：

1小間 320,000円(税別)

ブースサイズ

W2,970mm/D2,970mm/H2,700mm

募集期間：07年1月20日～4月30日

新銀行東京の融資商品のご案内について

東京都鍍金工業組合では、東京都の出資により昨年4月に開業した新銀行東京と、融資商品のご紹介を通じた提携をしております。当組合の組合員は、新銀行東京へ融資のお申し込みをする際、組合事務局の発行する「確認依頼書」を添付することで、融資事務手数料の優遇を受けることが可能となります。融資事務手数料の優遇商品は、「環境・CSR応援団」・「ポートフォリオ」の二つです。また新銀行東京では、平成18年9月に新商品「環境・CSR応援団」をリリースしています。この商品は、新銀行東京が指定した資格を取得している事業者が融資を受ける際、所定の金利より0.5%優遇される特典もございますので、是非ご利用下さい。

1. 融資事務手数料の優遇

●新銀行の新融資「環境・CSR応援団」および「ポートフォリオ」共通

《お借入金額1,000万円以上》

通常：21,000円（消費税込） → 優遇手数料：2,100円（消費税込）

《お借入金額1,000万円未満》

通常：2,100円（消費税込） → 優遇手数料：無料

*融資事務手数料の優遇には組合事務局の発行する「確認依頼書」が必要です。

2. お申し込み手順

1. 「確認依頼書」の発行依頼（組合事務局に発行をお申し出ください）
2. 融資の申込（「確認依頼書」を添付の上、新銀行東京へ融資をお申し込みください）
3. 融資実行（新銀行東京で審査のうえ、融資実行のお手続きとなります。）

*「確認依頼書」についてのお問い合わせは、組合事務局（TEL03-3814-5621）までお問合わせください。

「環境・CSR応援団」

新銀行東京は中小企業の皆さまが
取り組んでおられる環境に配慮した活動や
CSR(企業の社会的責任)の推進を応援します。



当社所定の金利より最大0.5%優遇

融資決定まで最短3営業日

原則無担保・第三者保証不要

最長5年・最高5,000万円

「ポートフォリオ」

最高5,000万円のご融資を、
お申し込みの翌日から
原則3営業日以内で審査。
中小企業の皆さまの期待に
スピーディーにお応えします。



原則3営業日でスピード回答

最長5年・最高5,000万円

原則無担保・第三者保証不要

*商品の詳細内容及びお申し込み条件等については、下記お問い合わせまでご連絡下さい。

お問
い合
わせ

新銀行東京 融資相談室

0120-289-227

新銀行東京ホームページ

www.sgt.jp

◎営業時間9:00～17:00（銀行窓口休業日を除く）◎電話番号・P45から4402-5982-7611へ（通話料はお客様の負担となります）



つま恋坂

広報の「つま恋坂」は広報委員の持ち回り随想欄で、昭和 50 年 11 月号掲載の品川支部の手塚忠大氏(現組合相談役)の「手前味噌」が始まりで、現在まで 30 年以上、360 回を重ね、読者に親しまれ、愛読されている。

この「つま恋坂」の名は、湯島のめっきセンター近くにある「妻恋神社」にちなんだものである。めっきセンター前の蔵前橋通の坂が妻恋坂であり、下りきった昌平橋通との交差点は「妻恋坂」という名称である。妻恋神社の由来は次の通り。

妻恋神社と夢枕

その昔、日本武尊(やまとたけるのみこと)の東征のおり、三浦半島から房総へ渡るとき、暴風雨に会い、妃の弟橘姫(おとたちばなひめ)が身を海に投げて海神を鎮め尊の一行を救った。途中、尊が湯島の地に滞在したので、郷民は尊の妃を慕われる心を哀れんで尊と妃を祭ったのがこの神社の起こりと伝える。後、稲荷明



神、倉稲魂命(うがのみたまのみこと)を祭った。

江戸時代、妻恋稲荷と呼ばれ、関東惣社と名乗り王子稲荷と並んで参詣人が多かった。また正月二日の晩に枕の下に敷いて寝ると、よい夢を見るという縁起物の木版刷りの「夢枕」が売り出された。

“お宝お宝と大音声に呼ばわったり”(宮島五丈原)「福寿鶴亀」と「七福神の乗合宝船」の二枚の夢枕は、万治年間(1658～61)に創案され、同社が版權を所有していたが、版木は戦災で焼失したと思われていたが、昭和 52 年摺師の家で見つかり、幻の夢枕は関係者によって日の目を見て売り出されるようになった。(文京区教育委員会)

城南支部の巻 躍進を続ける有限会社若山電鍍工業所

有限会社若山電鍍工業所の若山満社長は当組合の城南支部長、理事、財務委員、関東めっき健康保険組合の選定理事、めぐろ環境マネジメントシステム研究会の代表運営委員など、会社以外でも重責を担っています。また、長男の若山雅史氏は技能教育委員を務めています。

有限会社若山電鍍工業所のルーツは先代の若山宏氏(現社長の父)が若山研磨加工工業所を昭和 23 年 2 月に目黒区中根町に於いて開業し、その後電気鍍金の技術も修得し、昭和 48 年には、営業種目も拡大し現在の目黒区中根町に新工場を建設。時代と共に営業内容も変化し、資本金も増資を重ね現在 2310 万円。NSK ニードルベアリングと重要めっき工程の移管契約をし、化学研磨ライン、全自動鍍金剥離ライン、全自動防炭部分ライン、全自動研磨ライン等を導入、第三製造ライン樹脂めっき受注開始と次々と発展を続けています。

他社に真似の出来ない技術と設備のノウハウをマスターし、会社の強力なブレーンには長男雅史氏、次男裕二氏を控え磐石な経営方針で社長を支えています。

誰よりも社長の理解者であり協力者は社長夫人の常務取締役の若山静子氏ではないでしょうか。

バブル崩壊後の打撃は各社共少なからず体験していますが、工場隣地の土地購入と重なり景気も低迷の一途をたどりダブルパンチを受け辛労から髪の毛も抜け落ちたそうです。社員と家族が一同となりピンチを乗り越え、また社長の人柄の



(若山満氏)

良い人徳で人間関係も広く仲間の人達の協力も得て、事業経営もプラスの方向へ導き、未知への探究心と地道な努力で発展を続けています。

仕事もグローバルなら家族も国際的で長男夫人は韓国人、次男夫人はアメリカ人と異文化交流、習慣の違いなど居ながらにして把握でき、事業を国際的に発展する上にも大変役に立つ環境ではないでしょうか。次代を担う後継者の育成も社長の大事な仕事です。次なる事業計画も新たな秘策が社長の脳裏には閃いているようです。益々の発展をお祈りします。来年の平成 19 年度に品川支部との統合を控え城南支部のフィナーレを飾る支部長として、ご苦勞も多々ある事と思いますが、会社の発展と業界の為、また組合活動の益々のご活躍を期待しています。

有限会社若山電鍍工業所は平成十年度の中小企業活き活き事例 100 選にも選ばれています。

(城南支部 板倉富美子)

つ
ま
恋
坂

「5 OCEANS」 ファイブ・オーシャンズ



内山雄介(城東支部)

白石康次郎という一人の日本人が今、とてつもない夢に挑戦している。

‘ファイブ・オーシャンズ’・・・世界一過酷な外洋ヨットレース・・・

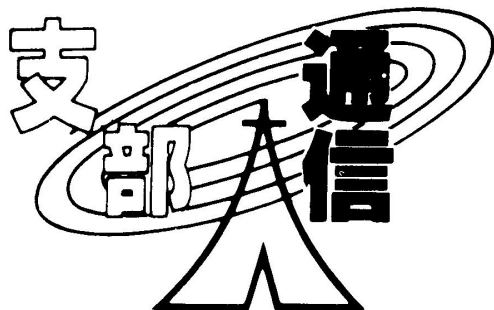
4年に1度開催され、今年で7回目。24時間×8カ月が1試合となるスポーツ史上最も長いレースだ。クラスⅠ（60フィート艇）とクラスⅡ（50フィート艇）によるクラス別のレースがあり今回は出発からゴールまで、寄港地がわずか2カ所しかない、この設定はレース史上初だ。白石康次郎はこのレースのクラスⅠにアジア人として初参戦している。（この文章を書きながらこの記事が掲載された時まだ無事にレースを続けていてくれることを願っている。）

レースは今年10月22日スペインのビルバオをスタートし（レグⅠ）12月下旬オーストラリアのフリーマントルに寄港、翌1月14日に同港から再びスタートし（レグⅡ）3月中旬アメリカ・ノーフォークに寄港・・・4月15日同港を出航し（レグⅢ）5月上旬スペイン・ビルバオにゴールする。

まさに気が遠くなるようなレースである。18メートル強もあるヨットを1レグ約2ヶ月一人きりで操舵しながらゴールを目指す。その間、睡眠も食事もこなしながらである。以前出発前のトレーニングの様子をテレビで見たが、狭いキャビンの中で一応横になるベッドらしきものはあるものの常にヨットは進んでいるわけだからちゃんと眠るなどと言うことはもちろんできず、ほとんど一時の仮眠のみで船を進めていく。

なぜそこまでしてチャレンジするのか・・・彼の公式ホームページには参戦する意義が書かれている。それによるとTVゲームばかりしている今の子供たちは‘命’の大切さが希薄になってきている、しかしこのレースはバーチャルなゲームではない、まさに命懸けで常に死と隣り合わせの状況で戦う、一度失敗をすると‘リセット’は出来ない、このリアルな‘非日常’を見て‘生きる’と言うことを考えてもらいたい・・・と言うような内容が書かれている。まさにその通りだと思う、最近の子供たちは‘死’とか‘危険’とか言うものがはっきりわかっていない、それゆえ人を傷付けることや自ら命を絶つことさえ簡単に考えているように思う。全てゲーム感覚なのである。

一人でも多くの子供たちに・・・いや、子供たちだけではなく一人でも多くの人に、こんな風に命がけでひとつのことに挑戦している人間がいるということを知ってもらい、生きるということの厳しさやすばらしさを学んでもらいたいと切に願う。レース序盤からアクシデントに遭い、セールや装備を破損しながらも12月5日現在、白石康次郎は出場7艇中2位（1艇はマスト破損のためレースを離脱）を航行している、健闘を祈りたい。



■城南支部

忘年会

急に寒さが増し、都会の街路樹も美しく紅葉して、木漏れ日に温もりを感じる晩秋の11月29日(水)PM6:30より城南支部(若山満支部長)では、東急東横線・都立大学駅近くの日本料理店「ひのや」に於いて参加者14名で忘年会を催した。

若山満支部長より「来年支部統合はするが、城南支部は城南地区として永遠に不滅です。今後も親睦を益々深めて行きたい」との挨拶の後、参加者全員に一枚ずつの年末ジャンボ宝くじの夢のプレゼントがあった。

大村功作理事長は「中央会、全鍍連、東京鍍金組合もほとんどの行事が終了し、後は忘年会、新年会を行うだけとなった。12月6日の推薦委員会で次期理事長候補者が選出される」と挨拶され、木村秀利顧問の乾杯のご発声で和やかに宴がはじまった。仲間が集い美味しいお料理にお酒が入れば皆いい顔になってチョイワルオヤジも中々魅力的です。

世の中いざなぎ景気以上の好景気といわれているが身近にあまり実感がありません。さて、今年の重大ニュースは何でしょうか、各会社においてもいろいろな事があったと思います。楽しい事、嬉しい事、悲しい事、辛い事、みんな乗り越



えて、今ここにいます。中澤敏明常任理事の閉会のことばの中に、忘年会の忘は希望の望で、年は念じるの念なので希望を念じてよいお年をお迎えくださいとのご挨拶があった。一年間お疲れ様でした。宝くじに夢と望みをかけて、各会社の益々の発展と活躍を念じて、元気で来る年に期待しましょう。

(板倉富美子)

■足立支部

環境強化月間講習会

足立支部（永田一雄支部長）では環境強化月間の11月8日（水）午後6時半より、中曽根会館で演題、「排水処理の現状と問題点並びに今後の動向」について、講師として東京都下水道局北部第二管理事務所、水質規制係長 久保田寅英様より講演を頂いた。

講演の要旨は以下のとおりです。
年々、環境監視の第三者の監視の目が厳しくなった。18年4月1日施行された公益通報者保護法、情報公開の法条例の利用者が増えた。近隣の方、ライバル企業、取引先、不動産関連業、研究者、環境保護団体が周りの監視の目になっている。

5年以上無事故無違反の優良事業所の排水処理の行動として

- ① 日の点検、点検したことを記録している。
- ② 反項目はバックテスト等で重点分析している。
- ③ 使用薬品はMSDSで水質規制物質を必ず確認している。
- ④ 事故発生時は水質規制課に連絡
- ⑤ 計量証明書、マニフェストは保存管理
- ⑥ 点検帳票のチェック後のサインの受領
- ⑦ 60日前事前届け出の相談



重みのある項目として

- ① 基準値が低い、処理が難しい
0.1mg/l 鉛、セレン

② 毒性が強く世間の注目の高いシアン、6価クロム

小型長期間自動監視装置が開発され改善後の公枅自動監視装置、違反水自動採水している。

亜鉛に関する下水道排除基準の改正について
環境基準に水生生物の保全のため新たに生活環境項目として全亜鉛が設定され、環境基準を達成するため排水基準が強化された。

下水道に流入する排水等が含まれる亜鉛の負荷量を低減するため、下水道に流入する排水等に含まれる亜鉛を低減させる発生源対策が必要とされ、下水道法施行令が改正されることになった。

下水道法施行令 亜鉛及びその化合物
5mg/Lから2mg/Lへ

電気めっき業においては5年間現行基準(5mg/L)を適用する。

講演終了後、細井副支部長の司会進行により永田支部長より連絡事項があった。

ひかり工業株式会社（栃木県栃木市）が12月1日より組合として加入され本日、伊藤京子取締役が出席され、紹介された。

環境月間優良事業所として

有限会社磯村鍍金工業所、有限会社瀬古鍍金工業所が表彰された。

排水集荷協力事業所として

有限会社小島鍍金工業所、有限会社内山鍍金工業所が表彰された。

当日の出席者は27名であった。



■葛飾支部

忘年会

葛飾支部(小倉攻一支部長)と葛飾青年部会(黒田祐二会長)は12月2日(土)午後6時からJ R綾瀬駅前の東京マリアージュ玉姫殿5階「葵の間」で支部員とご家族60名が出席して忘年会を開催した。

総務担当の広根淳一副支部長と松岡昇造総務の司会により、小倉支部長は「昨年より新年会を取りやめ支部と青年部合同の忘年会とした。本日はお忙しいなかをご来賓をはじめ支部員多数の出席を頂き厚くお礼申し上げる。私は20年前に当時の城南第3支部から葛飾に移ってきた。また今年から12支部長会が2~3ヶ月に1回開催されているが、葛飾支部は下町ならではの協力の精神があり、他の支部にはない独特のものを持っていると思う。殊に産業展においてみなさんの協力を得て今年魚4体を製作したが、お蔭様で2体の売り先が決まり、もう1体は区役所の応援を得てタスクに出品することになり、何とか一等賞を取りたいと思っている。さて、私の友人でゴルフの上手な者がいるが今年の成績はふるわなかった。年齢が60になり、やる気がなくなってきたようである。先週、仲間とベトナムへ行ってきた。現地の給料は1万円前後だが、非常に活気に溢れ、物凄いやる気がある。インフラは日本と比べものにならないが、先程60になったら気力が衰えたということだが、東南アジアの活力を見習う時にきているのではなかとと思う。本日は先生方が多数ご臨席を頂いているが、先生方には活力ある日本を取り戻すような政策をお願いしたい。又めっき業界は環境問題を始め土壌汚染問題など諸問題を抱えているが、我々の力の及ばない問題解決に先生方のご援助をお願いしたい。今夜は忘年会ということで、新年に向けて大いに飛躍する決意を胸に刻んで楽しく過ごし



て頂きたい」と挨拶した。

黒田祐二青年部会長は「今年より会長となり、10月の産業展に参加させて頂いた。赤ちゃんのICメリーゴーランドに各種金属を使ってアルマイト加工、めっき加工を施して出展した。小さなお子さんや親御さんから評判が良かったということでやって良かったと思っている。現在会員9名と少ないが、みなさん経営環境の厳しいなかで、前向きに明るく、元気に活動しており、私も勇気付けられるほどで、これからも任期一杯頑張っていくのでよろしく願い申し上げます」と挨拶した。

このあと、来賓として、大村功作理事長、山口那津男参議院議員、平沢勝栄衆議院議員、樺山卓司都議会議員、野上純子都議会議員、伊藤正樹都議会議員、鈴木一光都議会議員、葛飾区長代理・青木克徳収入役から挨拶を頂き、太田多一顧問の乾杯音頭で懇親会に入った。なごやかな歓談のなか、青年部会によるビンゴ大会が行われ、デジカメなど豪華景品が贈られて大変な盛り上がりを見せた。最後に神谷博行常任理事の中締めにより終了した。

■向島支部

「すみだ新ものづくりフェア」で実演

墨田区等主催の「すみだ新ものづくりフェア2006」が11月18日(土)、19日(日)、すみだ中小企業センターで開催された。

今回は、中小企業センター20周年記念事業として、11月17日のフォーラムに続き18、19日に実演展示等のフェアが行われた。

フェアのコンセプトは「ものづくりからはじめる・まちづくり・ひとづくり」で、

●すみだのものづくり

・区民に地元すみだのものづくりを理解してもらう

・区内産業人同志の交流の場

●中小企業センター、区内産業の未来をイメージできるフェア

●新東京タワーとすみだの産業をイメージできるフェア

向島支部(石田昌久支部長)はこの趣旨に賛同し積極的に参加することにした。

今回は、新東京タワー建設決定を受け、墨田区の新たなまちづくりをPRの一環として、



向島支部としてもミニ新タワー付きキーホルダーを製作して、来場者に実際にめっきをつけてもらい、めっきの面白さ美しさを体験してもらい、めっきPRに努めた。

向島支部では、新ものづくりフェア委員会(向坪昭委員長)を組織し、青年部の若葉会(岩井孝之会長)の協力を得て推進した。まず、受付で来場者にミニ新タワー付きキーホルダーを渡し、前処理から銅、ニッケルめっきを直接体験してもらい、最後に金めっきと塗装、乾燥してから来場者に進呈し、大変な好評を博した。特に子供たちに人気が高く、めっきコーナーには長蛇の列が出来た。

また、石田支部長はじめ支部役員は、本部・各支部から訪れた来場者を接待し激励等を受けた。



■城南青年部会

工場見学会

城南連合支部青年部会（入内島正悟会長）は、10月20日より2泊3日の行程で日本で最も活気ある地域、愛知県の㈱荒井製作所様（荒井督治社長）並びに㈱サーテックカリヤ小垣江工場様（竹内克弘社長）を総勢14名にて工場見学会を行った。

最初に一行は愛西市にある㈱荒井製作所様を見学した。同社は大正4年の創業以来、自転車パーツの製造で、国内外に広くその技術力を認められ、キャリパーブレーキやハンドブレーキ、ブレーキレバーなどの製品は国内大手メーカーの10台に5台は採用されていたが、最近では海外の安い製品も出回り、売上げに占める自転車部品の割合が過去80%から現在10%まで落ち込み、代わりに現在は自動車関連の製品が主力となり、自動車部品のヘッドレストステーやループハンドルなどの製品が売上げの70%を占めている。同社の強みは材料であるパイプの切断、プレス、そして表面処理を社内で一貫生産し、同業他社よりもコストの面で優位にたち、高い技術力を誇る生産工程を持っていることだ。

次に一行は刈谷市へ向かい、㈱サーテックカリヤ小垣江工場様を見学した。

同社は昭和26年

の創業以来、自動車産業と共に歩み続け、様々な自動車部品に防錆・装飾・機能めっきをしている業界屈指の企業である。同社はめっき設備、技術、検査体制など、競合他社の追随を許さず、さらには他社の出来ない事、やらない事に果敢に挑戦している。その為には新技術の開発に積極的に取り組む事、そしてそれを成し得る人材を育成するという事で、300人いる従業員の約半数がめっき技能士の資格を取得しており『企業は人なり』の理念を実践している企業である。

昼食を移動中のバス車内でおにぎりで済ますようなハードな見学会終了後、名古屋市内に移動し名古屋の夜を充分楽しめ、翌日、名古屋城を見学し2日目よりの参加者を出迎え懇親旅行の地、岐阜長良川温泉に移動し体を休め、翌日よりの仕事に備え英気を養い今回の工場見学会を終えた。

最後に、今回の工場見学会を快く受け入れて下さいました㈱荒井製作所様、㈱サーテックカリヤ様並びに工場見学会をコーディネートして戴いた上、初日一日中お付き合い戴いた㈱金属化工技術研究所



名古屋営業所・高橋
所長様、3日間お付
き合い戴いた同東京
営業所・井坂課長様
には厚く御礼を申し
上げます。
(文責 小山・入内島)



■西部支部

工場見学会

西部支部(西原敬一支部長)は11月17日(金)午後2時より、17名が参加し、NECコンピュータテクノ株式会社(山梨県甲府市大津町1088-3)を見学した。

代表取締役社長・那須賢治氏より挨拶があり、引続き那須社長ご自身よりNECコンピュータテクノ(株)の基本方針と、最先端技術を結集した世界の高級品を生み出す生産ラインについてトヨタ方式の導入によって飛躍的な業績の向上につながった経緯を熱心に説明された。

また、中国との生産コストの比較等、

我々の関心の高い問題についても詳しいデータをもとに分析されていて、見学者の質問に対しても明快な回答がなされた。

その後、SCM改革推進部長の椎名道則氏の案内で、経理部門のシステムと生産ラインの見学を終えて、有意義な工場見学であったことが見学者の中で確認された。

時期的には少々早いものの、この後、宿泊先のホテル春日居で忘年会を兼ねた懇親会を開き、深夜までカラオケを楽しみ、翌朝ゴルフ組は早々とホテルを出発、帰京組もそれぞれに満足感を胸に、和気藹々の中に工場見学を終了した。

(事務局・山下記)



■城北支部

忘年会

城北支部(今泉好隆支部長)は12月6日(水)午後6時からJR日暮里駅前のホテルラグウッドで来賓、支部員60名が出席して忘年会を開催した。

今村和則総務、大和田昌宏総務の司会により、はじめに高松俊和副支部長は「師走のお忙しいなか大勢ご出席頂き感謝申し上げます。例年暮れになると今年の10大ニュースが話題となるが、今年はオリンピック、ワールドカップが注目され、最近でははじめによる自殺がクローズアップされている。一方めっき業界では原材料の異常な高騰がトップではないかと思う。非鉄金属はいまだかつてない値段となっている。先日流行語大賞が発表され、イナバウアと品格が選ばれたが、品格は久しぶりに聞く日本語のような気が



(今泉支部長挨拶)

する。有名人で品性のある人は一番が吉永小百合さん、その後一郎、王貞治さんが続いている。本日はごゆっくりと歓談を頂きたい」と開会の挨拶をした。

今泉好隆支部長は「暮れのお忙しいなか多数のご参集を頂き感謝申し上げます。本部と支部の合同新年会を行うようになって当支部は新年会から忘年会に切り替えて今回3回目となる。支部員49社中46社の出席ということで大変嬉しく思う。合同新年会もいまのところ37社の参加を予定している。他支部では14~15社しか集まらない支部があり、苦勞され





(仁木青年部会長挨拶)

ているが、その点、当支部はみなさんの協力に感謝している。本日は時間の許すかぎりご歓談を頂きたい」と挨拶した。

仁木久之青年部会長は「青年部は今年35周年を迎え、11月19日広尾のレストランにおいて内輪で記念祝賀会を催し、支部からも多数の出席を頂き感謝申し上げます。また今夏には技能検定と取り組むなどいろいろな活動をしてきた。来年も活発に活動していくのでみなさんのご協力をお願い申し上げます」と挨拶した。

来賓として、花川与惣太北区長、西川太一郎荒川区長、須永京子荒川区議、菅谷安男荒川区議、近藤耐酸槽(株)近藤澄男社長、崎山知尚都議、鈴木貫太郎都議、松島みどり衆院議員から挨拶を頂き、野上敬副支部長が来賓の紹介の後、大和田博相談役の乾杯の発声で懇親会へ。なごやかな宴が進むなか青年部による福引が行われ、大変な盛り上がりとなり、篠根健一常任理事の中締め、上田浩司副支部長の閉会の辞を以って忘年会を終了した。

■大田支部

忘年会

大田支部(佐藤富幸支部長)は12月8日(金)午後6時30分から大田区山王の「富士家」で支部員26名が出席して忘年会を開催した。

池田潤一事業部長の司会により佐藤支部長は「多数のご参集を頂き感謝申し上げます。昨年同様に青年部の入内島会長に会場を手配して頂いた。このお店は昭和14年創業で大森でも屈指の老舗である。去る11月19日に城南連合支部のゴルフコンペを房総の米倉ゴルフクラブで開催し、大田支部から11名が参加して盛り上がった。我々業界を取り巻く環境は厳しいものがあり、せめて組合活動くらいは楽しくやりたいと思う。環境問題など難しい問題は企業の壁を取り払って力を合わせて取り組んでいきたい。来年もなお一層のご協力をお願い申し上げます。来



(大田支部忘年会)

年1月18日の本部支部合同新年会には当支部は24名の参加を予定している。2月3日の城南連合支部新年会は大田支部の幹事役で行うので多数の参加をお願いしたい。来年は猪年で選挙の年でもあるが、「健康に留意されて益々の事業の発展を祈念する」と挨拶した。

来賓として公防協組の小原俊幸専務理事は「今年は忘れたいことが多かったが、来年に向けて頑張っていきましょう」と挨拶。

志田和陽副理事長は、今秋の国家褒章で川上副理事長の黄綬褒章受章の栄について報告し、3月17日(土)目黒雅叙園で祝賀会を開催するのでご出席をお願いしたいと報告した。

川上洋一副理事長は、本部報告として、土壌汚染問題、亜鉛規制強化、ほう素ふっ素等の暫定基準に対する組合活動を説明した。

組合員である近藤忠夫区議会議員は大田区政報告として、羽田空港の国際化を

一層推進し、東工大等の教育・研究機関との産学交流を深め中小企業の発展に力を入れていることを説明した。特に羽田空港の国際化では、平成15年に羽田・金浦間のシャトル便が1日8便就航したが現在では16便が飛んでいる。安部首相が中国・上海に来年羽田からのシャトル便の就航予定を発表した。近年羽田空港の国際化が益々重要になり、第四滑走路や国際ターミナルビルの建設工事ははじまる。年間利用者数7000万人から2009年には国内線では8900万人、国際線では700万人と予想されている。国際線化や跡地利用が区民や区にとって良い波及効果が期待されるなどの説明があった。

葛西康二副支部長は「忘年会ということで、嫌なことは今年に置いて、良いことだけ来年に持っていこう」と述べて乾杯の音頭をとった。懇親会は大沢俊孝相談役の中締めまでなごやかに進められた。



■城北青年部会

創立 35 周年記念祝賀会

城北青年部会(仁木久之会長)は 11 月 19 日、広尾のレストラン「シェ モルチェ」にて支部員、名誉会員、OB会員、現役会員、夫人、合わせて 59 名が出席して創立 35 周年記念祝賀会 を開催した。

はじめに仁木会長より「本日は足下の悪い中、青年部の 35 周年記念祝賀会に多数の方々のご出席を頂き誠に有り難うございます。一言に 35 周年と申しても長い歴史を感じます。歴代の会長の方と、皆々様のご協力があるの事と思います。これからも青年部の和を大切にしていきたいと思ひます」と挨拶した。

続いて今泉好隆支部長より「青年部 35 周年を迎え誠にありがとうございます。昭和 47 年に発会式が行われ、現青年部仁木会長の父上が初代会長となり、発足



(仁木会長の挨拶)

された。それから 35 年の長い月日が流れ、今日に至っております。現在は少子化が進み家業を継ぐ事業所も減ってきましたが、これからも前向きに頑張ってください」と挨拶を頂いた。

この後、青年部二代目会長の海野吉正氏のご発声で乾杯となり、ミニコンサートや携帯電話を使った福引などを行っている間に時間となり、最後は歴代会長全員が前に出てきて頂き、青年部三代目会長松本光司氏の三本締めにて終了した。



漢堡包 (hanbaobao)

中国語で「漢堡包」は hanbaobao と読みます。これは何をさすと思いますか、答えは「ハンバーグ」です。

英語の hamburger はドイツの地名ハンブルグを指し、「ハンブルクから」という意味を示されています。これと同時にこの地域の特産—挽肉で作った一種料理、またはこの料理を挟んだパンのことも指しています。中国語の「漢堡包」の訳は音訳と意識両方を兼ねるという考えで訳されたと思われます。それは「漢堡」という地名の音訳の後に一つ意味を現す漢字を加えるという訳方法です。パンは中国語で「面包」mianba と読みます。

1980年代からアメリカのファーストフード・マクドナルドのチェーン店の中国進出に従って、この「漢堡包」の言葉はすべての丸いパンに挟む食品の代名詞となっています。但し、ヨーロッパでは「漢堡包」は一つの料理とするのに対して、中国の人はファーストフードとしか思っていない。

現在、この丸いパンに挟んだ肉、或は魚、或は野菜の「漢堡包」は中国の伝統食を変えようとしています。

編集後記

自宅を仕事場に行っていることから近くのコンビニへコピーを取りにいたり、郵便を出しに行くことが多いが、そんなときに50cc スクーターが便利で重宝している。以前のスクーターは2サイクルといって煙を吐いてエンジン音もかなりしたが、最近では環境問題からラジエター付き水冷4サイクルとなり、煙も吐かず音も静かになった。エンジンは小さいが自動車と同じように高性能である。しかも税金は年千円、自賠責も安く1Lで100kmくらい走るので毎日いろいろと使ってもガソリン代は月200～300円程度、原油高からガソリンが高騰しているが、スクーターではいくら高くなっても気にならない。

こうした便利なものであるが、雨や寒さに弱く、多少危ないことがネックになっているかもしれない。そうしたことが敬遠されているのか、人々の嗜好も変わり、最盛期の82年に比べると、二輪車全体の市

場は5分の1まで減少し、ホンダなど大手メーカーは生産を大幅に縮小している。時代の流れは自動車になっているが、自動車より格段とエコノミーな乗り物であり、もう少し見直されてもいいのではないかと。

広報12月号

印刷 平成18年12月15日
発行 平成18年12月20日
(毎月1回20日発行 第39巻第10号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 神谷 博行
印刷 スザキ企画 Tel 047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4
定価 500円